

ゆきぎのみち

日本古神
道研究会

年 頭 の ご 挨拶

あけましておめでとーございませう
皆様方には、よいお年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

『一年の計は元旦にあり』と申しますが、今年の計は出来ましたでしょうか。また、初詣には参られましたでしょうか。私達は直接の知識は知らなくても、大昔から連綿と、そして脈々と流れているご先祖の血や思いが、知らず知らずのうちに、一年のけじめとしてのご挨拶に伺う習慣となり、伝統となったのです。

過去におきましては、『伊勢神宮』・『石清水八幡宮』・『春日大社』の三社が、『三社明神』として特に崇拜された時期がございましたが、古には遙々と宇佐の八幡様へご託宣を頂きに行かれたお話し等がございます。ご皇室の継承問題等であれば、むしろ伊勢神宮にお伺いすべきかとも思われます。

また、同じ『八幡様』という字を書きながら、これを「はちまんさま」と申し上げたり、「やはたさま」とお読みしたり致します。今回は、こうしたことを中心にしながら、これらにまつわる昨年十月のお話しを掲載致します。

謹 賀 新 年

本年が皆様にとりまして
よいお年でありますよう
お祈り申し上げます

藤 原 大 士

藤 原 美 津 子

吉 田 洋 子

若 林 常 次

野 村 エ ツ コ

吉 森 英 次

日 高 ひ さ 子

宇 佐 美 輝 洋

井 上 智 司

藤 原 康 紘

貝 津 良 子

皇紀二六六三年十月四日 横浜定例講演会より

『八幡様の謎』

やはたさまと 今日「やはた様」と「はちまん様」についてのお話を致します。ど

ちらも『八幡様』と書くけれども、一方では「やはた」と読むし、他方では「はちまん」とも読みます。ここが皆さんにはよくわからないところがございます。

実際に「近江八幡」という地名がございますと同時に、京都のいわゆる石清水のはちまん様があるところは、「やはた市」です。現在は北九州市になっておりますけれども、もとは「やはた市」というのがあって、八幡製鉄があったわけです。今は富士製鉄と合併して新日鉄になっていきますけれども、やはた市というのがありました。

私のふるさと愛媛県にも、「やはたはま市」というのがございます。八幡の浜と書いて八幡浜市という所がございます。同じ字を書いて、「やはた」と読んだり、あるいは「はちまん」と読んだりしております。実際には「はちまん様」という言い方の方が一般的には多いかと思えます。このやはたと言ったり、はちまん様ということ自体、大変意味深いものを含んでおります。それは宇佐の八幡様にしまして、石清水の八幡様にしまして、ご社殿が前の殿と後ろの殿とに分かれています。

実際に石清水の八幡様に参りまして、いわゆるご本殿で正式参拝をさせていただいた際に、ご社殿を案内してくださったことがございます。そこには前の殿と後ろの殿の間に、豊臣秀吉が献上したと言われている『黄金の樋』というものが 있습니다。その樋をはさんで前の殿と後の殿があるわけですが、「その関係はどうなっているのでしょうか」とお尋ねをすると、石清水の八幡様の方では、「普段は奥の殿にいらっしゃるのです。そして儀式がある時に前の殿にお出ましをされるのです」というお返事でした。

しかし、「やはた様」という神様と、「はちまん様」という神様とは、全く別の神様でいらっしゃいます。「やはた様」の場合には、通常「八幡大神様」とお呼び致します。この神様は、私がかつて「盲目蛇におじず」のたとえの如く、まことに畏れ多いことながら、大宇宙の天地創造の神様であり、中臣の大袂いの祝詞に出て来られます『神漏岐・神漏美大神様』に、「天地創造についてお伺いをさせていただきたいのですが・・」と申し上げたところ、「そなたの訊ねる天地創造とは、大宇宙の天地創造のことか、それとも地球の天地創造のことか」と問い返されたことがございますが、その神漏岐・神漏美大神様の御子様は八幡大神様でございます。

少し難しく感じられるかも知れませんが、詳しく申し上げることに致します。神漏岐大神様こそ大宇宙の天地創造の神様であり、神漏美大神様も神漏岐大神様がお生みになられたと言いますか、お創りになられたのです。そういう意味では、私達人の世界で見ますとお子様ということになりかねませんが、最初から奥様としてお創りになられたのですから、お子様ではなくあくまで奥様で

いらつしやいます。

このお二人の間に比売大神様がお生まれになりました。そうして神漏岐・神漏美大神様が大宇宙へお出掛けになられる時に、留守を守るためにと、比売大神様にお授けになられたのが八幡大神様なのです。ですから、見ようによっては、神漏岐大神様のお孫様とも言えるのですが、神漏岐大神様は万物の創造神であり、直接比売大神様にお与えになられたのですから、御子様なのです。人の世界のように、肉体的・身体的なことではございません。

後ろの殿には、この神漏岐・神漏美大神様、比売大神様、八幡大神様がご鎮座になられています。もつとも神漏岐・神漏美大神様は、長い間大宇宙へお出掛けになつておられました。昭和三十七年にお戻りになられ、現在では後ろの殿にご鎮座になられておられます。

もつとも宇佐の八幡様と石清水の八幡様では、ご鎮座の位置が異なりますので、図示したいと思いますが、前の殿の神様についてもいろいろと問題がございますので、そのお話をした後に、図で示すようにしたいと思います。

応神天皇 の系図

そうして私達が「はちまん様」とお呼びしている神様、これは大鞆和氣命様、別名は菅田別尊様

とも言い、同じ読み方で品陀和氣命様ともお書きします。後の第十五代応神天皇様のことでございます。それでは応神天皇様とい

うお方は、どういうお方でいらつしやるとお呼びしている神様、これは大鞆和氣命様、別名は菅田別尊様とも言い、同じ読み方で品陀和氣命様ともお書きします。後の第十五代応神天皇様のことでございます。それでは応神天皇様というお方は、どういいうお方でいらつしやるかということですが、このお方は第十二代の景行天皇様の御孫に当たり、お父様は日本武尊 というお方です。

この日本武尊というお方は、もともとは小碓命と言つておられ、大変に勇猛なお方でしたので、十五六歳の時に父景行天皇は「西の方に熊襲建なる者が二人いる。この者達は朝廷に服従しない無礼な者どもであるから、平定しなさい」と仰せになり、小碓命は叔母に当たる斎宮の倭比売命から御衣裳をおもらいになり、剣を懐中に忍ばせてお出掛けになりました。

熊襲建の家に來てみると、家の周辺を熊襲の軍勢が三重に囲んで厳しく警戒する中で、新室落成の祝宴を催そうと準備をしているところでした。それでその祝宴の日を待ち、当日少年の髪型をほどいて垂らし、叔母からもらった衣裳を召して少女の姿に変装して熊襲の女達の中にまぎれて室内に入ると、熊襲建の兄弟二人は小碓命が変装した乙女を見てすっかり気に入り、自分達二人の間に坐らせて盛んに祝宴を催したのです。

その祝宴が最高潮になるのを見計らつて、小碓命は懐中から剣を取り出し、兄の熊襲の衣服の衿をつかんで胸に刺し通したのです。それを見て弟の建は恐れをなして逃げ出したのですが、すぐさまこれを追つて階段下で捕まえ、剣を尻に刺し通したのです。する